

① 大井たる地名の由来について考える

岡山県通史に、「大井の名は葉田の大堰から起こるか。其は大井古市場（現在の大井葵町）の上方鍛冶山下の堰にして、山麓の用水路を通じて上・下足守、上・下土田を灌漑す。」とあります。

また、足守幼稚園建設に先立ち、平成4年5月に岡山市教育委員会による足守庄条里制（現代風に言えば「圃場整備事業」）遺構の発掘調査が行われ、報告書に「足守庄の大半は、西暦800年から900年に開発されたもので、それには足守川から取水する水路開発が大きく関係している。」と記載されています。

そこで、この二つの文書から、なにゆえ鍛冶山下へ足守庄取水口の大井堰が設けられることになったのか考えてみました。



以下は全くの私見ですが、

先ずひとつは、ここは、大井川（現足守川）・日近川、二河川の上流部に当たる西・北・東から谷々の水が一カ所に合流する漏斗の口部にあたり、効率的な取水が可能であること。

今ひとつは、鍛冶山下葉研淵の標高と考えます。つまり、足守庄を平板に捉えますと、その板は北から南に、かつ東から西に向かって低くなっています。つまり、標高が高い庄域の北東部へ導水すれば効率的に庄域内の配水が可能なのは訳です。取水口は、この点を考慮して設けられています。鍛冶山下で取水し、庄域の東沿いを冠山（絵図中の福岡山）東麓まで導水し、地盤の傾斜を利用して庄域のより広域的な灌漑を可能としています。取水口が鍛冶山下という理由は、下流になるほど取水水面が低下し、灌漑面積が次第に狭まってしまうためです。

さて、かくして井堰の東端は鍛冶山下と決まりました。では、西端はどこでしょうか。当時ここは、二つの川の合流点で一面の河原であったことでしょう。そこで気になるのが、農協ガソリンスタンドの裏山。ここを「いのはな」と呼びます。吉備郡史には「井ノ鼻山また井幡山」とあります。考えれば、「ハナ」も「ハタ」も同じ「端っこ」という意味ではないかと思うのです。つまり、井の西の端はこのあたりではないか……。すると400mに及ぶ井堰が設けられたことになります。まさに大井です。

そして、井堰に守られた下流側は、周囲の谷を受けた経済活動の中心地となり、中世（鎌倉時代以降）、既に市場が開かれていたのです。（岡山文庫「山陽路の歴史散歩」宗田克己著）

足守庄絵図（京都・神護寺蔵）

